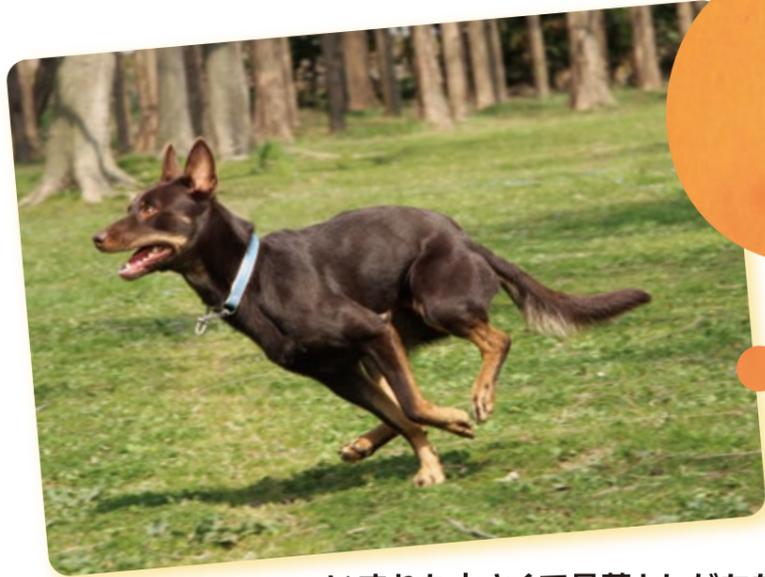




「爪」「ひげ」「肛門のう」 秘められた機能とは？



いずれも小さくて見落としがちなパーツですが、
どんな役割があるか知っていますか？ お手入れ方法も含めてご紹介！

自慢の脚力を支える 犬の爪

全力疾走するためのスパイク

一般に犬の指は前足に5本、後足に4本あり、それぞれに爪があります(なかにはグレートピレニーズなど、後足の指が6本ある犬種も)。

獲物を走って追いかける追跡型の狩りをしてきた犬にとって、爪は大切なスパイクとして活躍します。野山はもちろんです。時には切り立った崖や滑りやすい雪上を走り続けるために、しっかりと地面をこらえる必要があるのです。待ち伏せ型の狩猟スタイルで、足音を消すために、爪を自由に出し入れする猫との違いですね。



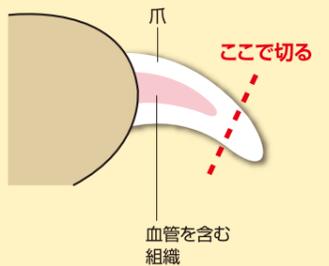
伸びすぎればケチなら爪切りの習慣を

ふだん十分な量の散歩や運動をしていれば、爪は自然とすり減って、ちよつとよい長さが保たれます。しかし、運動が不足しがちな室内犬や高齢犬、病気の犬などは、放っておくと爪が伸びてしまいます。とくに、狼爪と呼ばれる前足の肉球の後方にある小さな爪は、地面に触れないため、すり減ることがありません。爪は伸びすぎると巻き爪になったり、歩きづらくなつて痛みが発生することもあるので、定期的な爪切りが必要です。子犬の頃から習慣にしましょう。爪の中を通っている血管と神経は、爪と一緒に伸びます。爪を切らずに放置していると、次に爪を切る

ときに伸びた血管や神経まで切断しなければならなくなり、犬に痛い思いをさせてしまいます。

爪の切り方

- 爪の根本のピンク色の部分には血管と神経が通っていて、切ると痛みを伴い出血するので、先端だけを切ります。
- 黒い爪の場合は、少しずつ切り進め、血管が近づくと断面に黒い芯のようなものが見えてくるので、そこで切るのをストップします。
- 出血してしまった場合は、止血剤をつけましょう。



犬が嫌がって暴れる場合は、かかりつけの動物病院に相談してみましょう。無理をして失敗すると、次から爪切りをさせてくれなくなったり、飼い主さんの信頼関係を損なう原因にもなりかねません。

スキャンクだけでは足りない!? 犬にもある肛門のう

お尻から出るへそ〜い分泌物

犬の肛門の左右斜め下あたりに、肛門のうと呼ばれる袋が1対あります。この中には、独特の強いにおいのする分泌物がたまっていますが、これは、スキャンクが敵を撃退するときに臭いにおいを発することと同様のもの。犬が怖がりたり興奮したときなどに、この分泌物が排出されることがあります。せとも、自分のおい、として個体識別の役割を担っており、犬同士がお互いのお尻を嗅ぎ合うのも、このにおいを嗅いでいるといわれています。

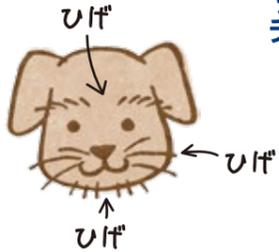
肛門のう絞りひん

分泌物は、通常は排便時などに少しずつ排出されますが、肛門のうの導管や開口部が詰まると、たまりすぎて炎症を起したり、破裂することもあります。



犬のひげはただの飾り？ 周りの情報をキャッチ

犬のひげは、口の左右だけでなく、あごの下、頬、目の上などにもある太くて硬い毛です。「触毛」と呼ばれ、体毛とは違って、根本に神経や血液が通った感覚器官です。猫の場合、近くの物体の動きや、温度、湿度、風向きなどを敏感に察知する能力がありますが、犬の場合は現代では退化してしまつたのか、それほど重要な役割は担っていないといつていい説が一般的です。



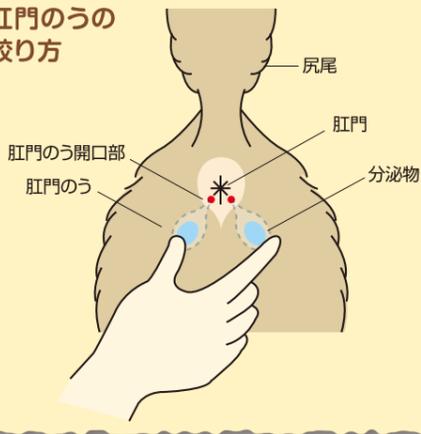
犬のひげは切ってもOK??

そのため、犬のひげは切っても問題ないといわれ、顔をスッキリ美しく見せるためにトリミングの際にカットする犬も少なくありません。



しかし、目の見えにくい犬のひげを切つたら、不安を感じて動けなくなつてしまつた、という報告もあります。視覚や聴覚などの感覚器官を失つたり、高齢になり感覚機能が衰えてきた場合には、ひげが他の器官の補完的な働きをするのかもしれない。

肛門のうの絞り方



肛門括約筋が弱く、自力で排出できない小型犬など、分泌物がたまりやすい犬は定期的にしほり出す必要があります。お尻を地面にこすりつけたり、しほりにお尻を舐める、肛門のうの位置を触ってみてふくらみを感じるようならそのサインです。肛門のうのある場所は、肛門を中心に時計の4時と8時の位置。ぶくぶくふくらんでいるとそこに親指と人差し指をあて、奥から手前に引き上げるイメージで下から上に押し出します。分泌物は非常に臭く、付着するにおいが落ちにくいので、ティッシュやガーゼをあてて行うこと。できれば、浴室でシャワーをかけるながら、素手で行うのが最も簡単な方法です。肛門のうが硬くなつたりしてうまくいかない場合は、無理せず動物病院にお願いしましょう。